

平成26年4月28日

核融合研究作業部会

資料 1-4

原型炉開発に向けたプラズマ・ 核融合学会の貢献について

プラズマ・核融合学会 会長

二宮博正

プラズマ・核融合学会の概要(1)

1. 学会活動の目的

プラズマ及び核融合両分野の学術研究の促進を図るとともに、人材育成に貢献

(1) 学術研究促進

「核融合」研究では、超高温プラズマの学術研究の体系化の推進、炉工学分野の研究の更なる活性化、ITER建設や幅広いアプローチ活動の成果の活用等を通し核融合炉実現に向けた研究基盤の構築を目指す。

(2) 学協会連携

(3) 学会活動の国際化

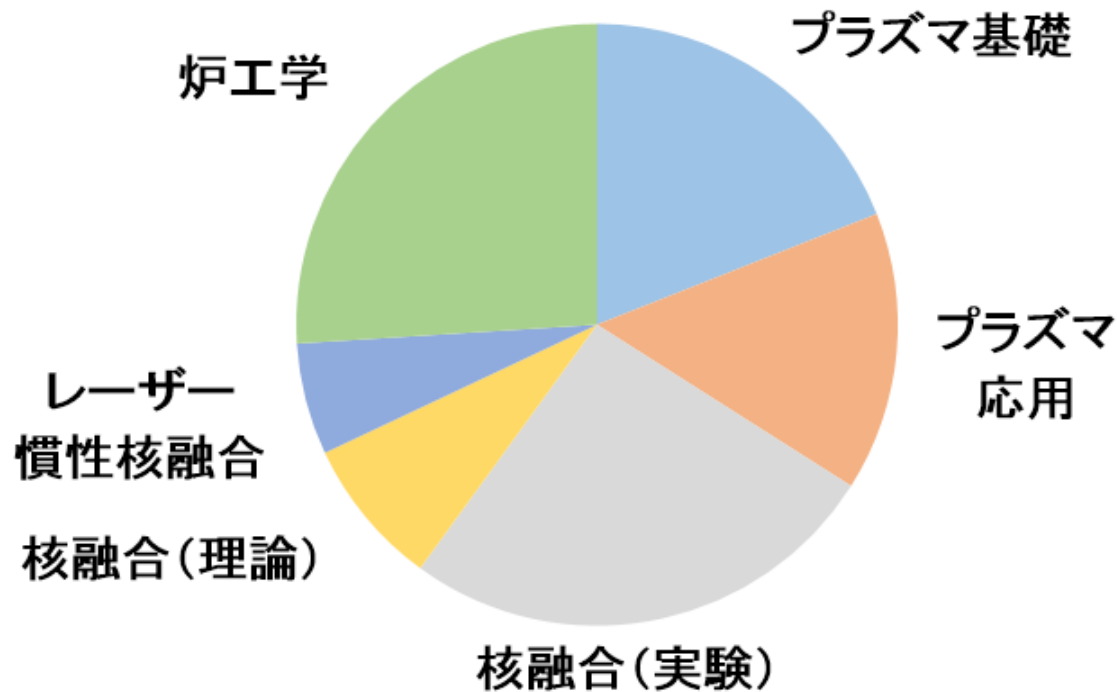
(4) 学会内外に向けた情報発信

プラズマ・核融合学会の概要(2)

2. 会員数と専門分野別割合

正会員： ~1300名

学生会員： ~350名



プラズマ・核融合学会の活動(1)

1. 年会、学術講演会

(1) 年会(毎年1回)

本年は年会を兼ねたPlasma Conference 2014を、日本物理学会領域 2 及び応用物理学会プラズマプロセッシング研究会と共同開催

(2) 核融合エネルギー連合講演会(2年に1回)

本年6月に日本原子力学会核融合工学部会と共同開催

シンポジウム: 発電実証に向けた核融合研究の進展 I, II, III
発電実証をになう若手の活動

パネルディスカッション: 発電実証にかかる戦略

(3) 九州・沖縄・山口支部大会、北海道地区研究発表会 (毎年1回)

今後の取組み: 電気学会、日本機械学会、低温工学・超電
導学会等との連携強化

プラズマ・核融合学会の活動(2)

2. 学会誌、英文論文誌の刊行

3. 萌芽的な研究、イノベーティブな技術開発の促進

(1) テーマを公募し専門委員会を設置

- 助成金を支給
- 26年度は5テーマを推進

今後の取組み: テーマ数、助成金の増大

4. 産業界との連携強化

(1) 専門講習会

企業等での学会成果の活用を促進

(2) 産業界との懇談を中心とした講演会

プラズマ・核融合学会の活動(3)

5. 若手研究者の育成

(1) 若手夏の学校(毎年1回)

運営を若手に一任

今後の取組み: 日本原子力学会核融合工学部会との協力を模索

(2) 高校生シンポジウム(毎年1回)

- ・ 高校生の研究成果の発表・議論
- ・ プラズマ・核融合研究の紹介

(3) 専門書の出版

プラズマ・核融合学会の活動(4)

6. 社会への情報発信

(1) 公開講演会

(2) 小中学生向けの科学教室等

(3) ホームページでのプラズマ・核融合に関する知識の普及

今後の取組み: 大学・研究機関や核融合エネルギーフォーラム等との連携強化

7. その他の今後の取組み

- ・ 受託等に基づく各種課題に対する学会としての検討・評価

例: 報告書「核融合エネルギーの特徴と核融合炉の安全性・安心感」を2012年に作成

- ・ 核融合原型炉のための各種規格、基準等の制定

原型炉開発に向けて

今後に期待する対応

- ・ 責任を持って開発を進める中核となる組織が必須。
- ・ この中核組織を中心に全日本体制を構築し、強力な開発推進を期待。